

責任：コーディネーターはどのようにして組織への責任や世界への責任を果たすのか

提出者：BEV AND AFFIEN

私たち3人はストーンポイントで樹の下に座って、「責任」という概念を静かに自分たちのうちに取り入れてみて、何が浮かんでくるかみていました。私たちが「責任を果たす」というのはどういう意味なのだろうか？

責任とは何か明確になってくることを意味している。

内側を確認して、誠実に行動して、自他に対する尊重

立ち上がること…自分のうちに立すること

自分に正直であること、そして他者にも

私たちの真実を話すことは成長、拡張するエネルギーへと繋がる。

私たちは真実が浮かんでくるためのスペースを守っておく必要がある、私たちの中にも、他者の中にも。

真実はいつも「政治的に正しい」ようにはやってこない。それは完璧であることではないし、「完璧に近づく」ことでもないし、「正しいあり方」で話すことでもない。私たちは、あとになって自分たちの言葉のインパクトや振る舞いについて責任をとることになる。皆が私たちの相互作用から学ぶことができる

私たちの存在のあり方に責任をもつこと～私たち自身をケアし、私たちにとって善なるものは全体にとっても善であることを知ること。だれかに指を指して別の人を悪者にしないこと。

不真実と生きるのは魂にとって善いことではない。

私たちは（責任という）この価値観についてフォーカシングをすることは、からだにそれを根付かせて、よりはっきりさせることがわかりました。このシンプルなエクササイズには大いなる価値があることがわかりました。私たちは次のようなことを問うのでした。「私たちのコーディネーターの会でどのように責任の根に水を与え養うのか」「私たちはどのようにしてこの価値や他の共有の価値を支える文化を発展させたいのだろうか」。

私たちは責任や他の共有された価値観に対する、このシンプルなフォーカシングをより大きな集まりで、あるいは新しいトレーナーが集うウィークロングであることを提案したい。私たちはどのようにして、この集会でしているような「真実に振る舞う」ことを推奨してフォーカシングの価値を生き続けるようにできるのでしょうか。

この会は始まりに過ぎません。私たちはどのようにして、コーディネーターの責任をさらに探求することができるのでしょうか。上記のような個人的責任の感覚から、どのような行動が現れるのでしょうか。

私たちは具体的なアイデアとして、すべてのコーディネーターに3年に一度はコーディネーターのコミュニティに対してなんらかのボランティアすること、それが Functional whole（委員会的一种）に加わることや、通訳をすることや、会議を計画することなど、どのようなことであろうとも、ということをお話ししました。また、新しいコーディネーターに、初年度は Functional whole に属することを要求しようかといったことをお話ししました。

私たちはこのような案や他の案を検討する時間はありませんでしたので、今後もフォーカシングや電話会議グループなどで検討を続けたいと思います。ベバリーがその電話会議グループのお世話をするので、全体のコーディネーター集会で参加者を募りたいと思います。